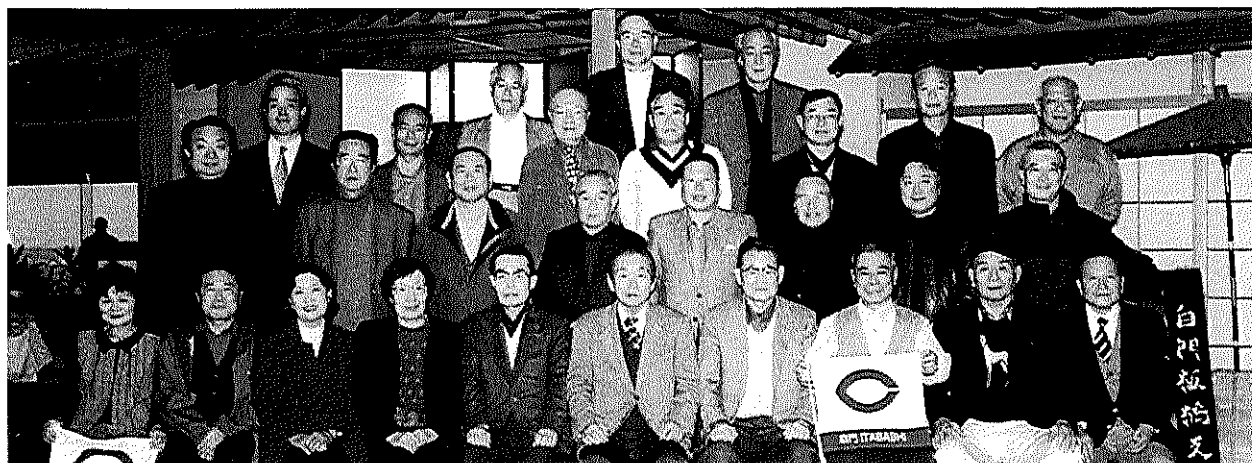




# 白 門 板 橋

2004. 3. 15 VOL. 21

編集 中央大学学会 東京板橋区支部  
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL 03-3550-3300



■新春のごあいさつ

## 充実した支部活動を!!

支部長 小日向 孝介

二〇〇四年、明けましておめでとうございます。

本日の新春の集いに、多数のご出席を賜り厚くお礼申し上げます。皆様には昨年同様、温かいご支援をお願い申し上げます。

昨今の日本経済は、一部で明るさを取り戻したとの報道もありますが、実感としては依然苦境を脱し切れておりません。政府の月例報告では、「景気は着実に回復……」としていますが、一日も早く国民が実感できることを願ってやみません。

母校の近況では、代行でありました大学総長に、外間名誉教授の就任を得て、推進中の百二十五周年プロジェクトを実現のための強力な執行部態勢が確立されました。また本年は、著名な教授陣をそろえ、充実した法科大学院が発足いたします。正に教学一致して伝統復活に情熱を傾注しているところです。

昨年の衆議院選挙には、本学関係で三十一名が当選し、最高裁判事には才口学員が予定されております。

板橋区支部では、昨年、創立十五周年記念事業を盛大に実施致しました。会員数およそ二百名を擁し、都内でも有数の地域支部として、活発な活動を続けています。新たに忘年会を支部行事に加え、昨年暮れに盛況裡に開催しました。幸い当支部は、深い専門知識と豊富な経験を有する多数の人材に恵まれております。今後はさらに間口を広げ、地域に密着し地域の活性化に資する組織的な活動にも取り組んでいきたいと考えております。

会員の皆様のご健康と支部の発展を祈念して、挨拶と致します。

# 支部ニュース

## 初の忘年会盛大に開催

\*\*\*

支部の公式行事になった「忘年会」が、去る十二月二十日（土）午後六時から蓮根・「よし邑」で開催されました。

「秋の旅」、 「新春の集い」と行事が続くだけに、出席人員が心配されたが、四十七名もの多数が出席して盛況であった。ご存知のように、会場は川口



▲写真は忘年会の中締め風景

副支部長の経営する店だけに、会費に見合わない宴会料理をふるまってもらい、参加者一同大いに満了した忘年会でした。

## 「新春の集い」には七十四名が参加する

\*\*

恒例の「新春の集い」が一月二十一日（土）午後六時から区立文化会館大会議室で開催された。

小日向支部長と石塚顧問（区長）の挨拶の後、記念撮影を経て、常任幹事の発声で乾杯！

懇親会に移り、新入会員と初参加者の自己紹介を行ない歓談に入る。宴半ばにカラオケ同好会のリードで、カラオケを楽しみみやかに進んだ。途中高島平の竹田副ブロック長から今年の観桜会の案内があり、盛り上ったところで恒例になった校歌・応援歌・惜別の歌を輪になって楽しく合唱した。

挨拶を兼ねた牧相談役が景気よく三本締めで締め、お開きとなった。

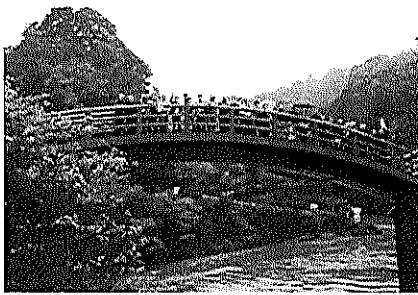
## 秋の旅行雨にたたる

\*

去る十一月二十九、三十日（日）の一泊二日で、恒例となった秋のバス旅行が行なわれた。

生憎の悪天候に、誕生寺参拝や勝浦の朝市見学を見送らざるを得なかったが、雨にけふる「日本の棚田百選・大山千枚田」や大宮喜城のたたずまいに、深まり行く房総の秋の風情を味わった。

千畳敷の展望温泉・天の川が売り物の小湊のホテル三日月では、くだんのごとく呑めや唄えやの一夜を過ごし、君津市の宮崎酒造店でも参加者全員が吟醸酒をしたままい込んで、帰途についた。



▲養老溪谷に架かる橋の上で

### TOPICS ①

## 関先輩卒寿を祝う

☆☆☆

板橋区支部の最長老・

関正夫先輩が、昨年十二月に満九〇歳となり、めでたく卒寿を迎えられたが、忘年会・新年会など支部の行事には、欠かさ



ずに皆勤されて、すこぶるお元気

である。

本学を昭和十二年に卒業して、兵役にも服して、おり鍛え方も違いますが、健康の秘訣は禁煙と菜食と歩くことだとか……。

### ■ 訃報

▽田中 金松 昭和三〇年法卒

平成一六年一月三日逝去

・板橋区双葉町一五ノ四

元板橋区議会議員

(事務局)

# 母校のニュース

## 法科大学院入学合格者を発表

今春四月に開校する法科大学院入学者のうち、法学既修者（定員一〇〇名・二年）の選抜試験が行われ、三〇九名（受験者二二二〇名）の合格者が発表された。

合格者のうち、九八名が中大関係で他の二二一名は、早大、慶大、東大など他大学出身者。なお法学未修者（定員一〇〇名三年）の志願者は、三二八三名



▲ 4月から開校する大学院校舎

で、最終合格者は一〇〇名の超難関となった。志願者合計は、五四一三名で早大の四五五七名をしのぐ第一位となった。

## 学部入学志願者も増加

平成十六年度の学部入学志願者は、早大の八〇〇〇人減をはじめとして、少子化の影響であるうかが、六区山下りで野村俊輔君の快走があり、復路二位と健闘。伝統校の面目を保った。

## 箱根駅伝は七位に終わる

新春恒例の箱根駅伝は、総合七位となり、辛うじてシード権を確保した。

昨年一年間の中大陸下陣は、全日本大学駅伝予選会を九位敗退するなど、不振続きであった。このため、箱根でも苦戦が予想されたが、六区山下りで野村俊輔君の快走があり、復路二位と健闘。伝統校の面目を保った。

なお今年四月、高校日本一の上野裕一郎君（佐久長聖高）が入学し、一段のレベルアップが期待される。

## 中大総長に外間名譽教授就任

高木総長が亡くなられてから空席だった母校・中大の総長に、阿部二郎理事長が代行していたが、



外間総長

昨秋の選考委員会で、外間寛名譽教授が選任された。

## 母校三五周年記念事業

寄付金の進捗状況

中大の創立二五周年記念事業の募金がスタートして、二年が経過した。途中経過は『学員時報』で報じられている通りであるが、板橋区支部の募金実績は、いまひとつの頑張りが見られる。協力者の詳細は、四頁を参照下さい。

(栗原記)

## 告知版

### 第十六回・支部総会

日時／六月十九日・土 午後六時から  
会場／区立文化会館 4F大会議室  
会費／七、〇〇〇円

### 支部観核会の日程

日時／四月三日（土） 正午から  
会場／都立赤塚公園 会費／四、〇〇〇円  
当番／高島平ブロック  
雨天の場合は、正午から徳丸ヶ原公園内集会所（高島平八ノ二四フ一）に集合下さい。  
申し込みは、別紙でお願いします。（池田記）

# 百二十五周年記念事業募金実績

二〇〇二年一月から受付が開始された母校・中大の創立一二五周年記念事業の募金は、今年一月末現在で板橋区支部は、団体を含む二七名で二七四万円と都区内一六支部中、四位の成績である。

この数字は、支部在籍会員のおよそ一割にも満たない数字で、奮起が望まれるところです。

## 支部総額

三、七四〇、〇〇〇円

\*

(敬称略・申込み順記載)

- 小日向孝介
- 池田 巨利
- 中路 義雄
- 平山 惟美
- 栗原 三郎
- 大泉 喜義
- 栗原 泰房
- 永江 益男
- 板橋区支部囲碁部 (有志)
- 板橋区支部
- 露木 久剛
- 関上 裕次
- 成毛 義光
- 田中 義了
- 清水 治男

- 田中 泰治
- 徳永 勝彦
- 相沢 明
- 小野沢隆一

- 滝口 信一
  - 仲光 義雄
  - 下野 俊宏
  - 巨勢 典亨
- (以上、団体含む二七名)

## (注)

募金に協力されます際は、所属支部名(板橋区支部)を明記して下さい。

\*\*\*

## 新入会員の紹介

\*\*\*

- ▽山城博光 四五年法卒
- 板橋区赤塚四丁目一ノ六
- ・勤務先
- ブランドヒル市ヶ谷
- ・趣味/ゴルフ
- ▽古谷 毅 五六年商卒
- 板橋区高島平七丁目
- 十一ノ五
- ・勤務先
- 古谷運送 事務取締役

## 故人もキンチリ完納

昨年一月に亡くなられた坂井健一氏(支部監事)は、一昨年の十一月に募金を完了している。

毎年皆勤されていた秋の旅行と有志による忘年会を、それぞれ体調不良で欠席されたが、入院先の病院のベッドで



家人に指示されたものかどうか：

：？。病床にあっても母校を愛する気持ちは一層強かったのだと思えます。健康であるわれわれ後輩が、まさに見習うべき美談と言えましよう。

\*

ゴルフや一杯飲む金はあっても、なかなか「寄付」行為はできないものですが、冗費を節約すれば、捻出できる金額なので、皆様のご協力をお願い致します。

\*

母校・中大の職員であるI氏は毎月月の給与から天引きで募金に協力された。職員だから当然という論はどこにもないのだから、これもまた立派なことです。

複数の学員会支部に所属する方は、板橋区支部を優先してご協力下さるよう、お願い致します。

(支部推進委員・池田記)

■秋の旅行記

雨の房総ぞぞろ歩き



※雨にもめげず出発

十五年度・板橋区支部の野外イベントは、春の観桜会につき、秋の房総を訪ねるバス旅行も雨にたたられてしまった。

十一月二十九日(土)午前八時、傘を片手に参加者二十八名がそろったところで、板橋産文ホール前をスタート。

早々に幹事手配の缶ビールが配られ、会長挨拶、乾杯!。見る見る車内の熱気が高まったところで、東京湾・アクアライン「海はたる」での休憩。天候不良で視界が悪く、楽しみをなくしたが、ビン入りの生きた「ウミホタル」に初めてお目にかかった。

\*

※ウミホタルは青森から沖縄までの太平洋沿岸に棲息。体長約三ミリ、ミジンコの仲間。青紫色の発光液を吐き出す。



▲冬の大山千枚田

「鴨川市大山千枚田」は、雨にけぶって風情たつぷりの佇い。

霜月だというのに、集会所はストーブを炊く寒さだったが、棚田保存に情熱を傾ける同会会長の講演を傾聴した後、近所の農家の主婦手作りの弁当に舌鼓を打ち、デザートにみかんをご馳走になり、安房小湊へ向かう。

※大山千枚田は三ヘクタールに四、百枚の水田が広がる。標高差六十メートル。平成十一年「日本の棚田百選」に認定される。

\*\*

「千畳敷の展望温泉・天の川」が売りの小湊・ホテル三日月での一夜は、よき学友・美し酒・佳き肴とカラオケに囲まれて、快適に更けていった。

※波乱を秘めた大多喜城

翌朝八時半、どしゃ降りの雨の中をバスは出発。

予定していた誕生寺の参拝、勝浦の朝市散策は割愛して、養老溪谷へ。途中、土産物屋で雨宿りした甲斐があつて、雨足も次第に弱まってきた。休日でも雨天のせいか道路は空いている。

二日目、最初訪れたのは、上総国の隠れた名所・大多喜城。天正十八年(一五九〇)小田原討伐の後に関東に入った徳川家康が、この地に本多忠勝を二〇万石で入封させたが、はじめ入城した根古屋城は城地が狭小だったため、選地して普請したのが大多喜城。

天保十四年(一八四三)火災で

焼失。以降、再建されず建物は明治になって取り壊されたが、郭跡は残っていた。昭和五十年復興の天守と櫓は、総南博物館となり、房総の中世、近世の歴史資料を展示している。

大多喜城を見学してから、溪谷沿いにある「ホテル岩風呂」で昼食。鮎の塩焼きと鯉のあらいは、日本酒にピッタリで魚好きの者には格別だった。

昼食後、溪谷入口に架かる朱塗りの橋の上で記念撮影。足場が悪く、紅葉の養老溪谷散策も割愛に。(残念!)

お陰で、君津市・宮崎酒造店での見学時間はたっぷり。社長父子二代は中大OB。亡き父君の跡を継いで、理想とする酒造りに励む若社長夫妻が、日曜日にもかかわらず試飲を含め、懇切に案内してくれた。

ビンゴゲームを楽しみながら復路のバスは快調で、予定より三十分も早く板橋区役所前に帰着。雨はすっかり上がっていたが、春秋二度の悪天候に、雨男探しがまだ続いていた。

(金子益朗 記)

# 土屋隆夫文学拾い読み



## 『不安な産声』

著者／土屋 隆夫

発行所／光文社

著者プロフィール

一九一七年、長野県生まれ。

中大法学部を卒業。戦前に化粧品会社の宣伝部に勤務し、戦後は中学校の教師の傍ら、演劇の脚本を発表し、信濃毎日新聞の脚本募集に入選している。

一九四九年に「寶石」の懸賞小説で一等入選した「罪ふかき死」の構図で推理作家としてデビュー。ラジオなど放送作家を含めた長年の創作活動が評価されて、二年前には第五回・日本ミステリー文学大賞を受賞している。

\*

本書は、作者の九作目になる作品で、一九八九年一〇月に書き下ろし刊行された。

物語は、検事に真実を告白す

る犯人の手紙から始まる。

主人公は、地位も名誉もある医大の久保教授で、若い女性を強姦し扼殺したとして逮捕された。

裁判を待つ拘留所の中で、取り調べに当たった検事に、隠していた真の動機を手紙にしたためる。

\*\*

第一部「過去の章」から冒頭の文章を展開しますと、  
検事さん。

ようやく心が決まりました。もう大丈夫です。いまの私は、昨日までの自分とは、全く別人になつたような気がします。あなたに死

てて、この長い手紙を書こうと思いたったのも、そのためです。これは、私の過去にまつわるあ



る事実の告白です。ただ、その事実が、世間の常識や想像を超えた事柄であるために、だれにも話すことができなかったのです。私の人生に印された大きな汚点、癒すことのできない心のみにくい傷跡を、私はいま、勇気をふるってお目につけたい。いや、ぜひ聞いて

いたきたいのです。  
過去二十年余り、だれにも打ち明けず、だれにも知られたいくなかつた秘密を、初めてお話しする相手が、検事さん、あなたであつて

本当によかつたと思います。あなたなら、この手紙を法廷に持ち出したり、記録に残すようなことはなさらないでしょうから。  
以下略

\*\*

人口授精がモチーフで、医者を守るべき倫理を超えて自らの精子を患者に与え、生まれた美しい女性に実の息子が恋をする。祝福す

べき一人だが、近親結婚を許す訳にはいかない。罪のないお手伝いを強姦・殺害することで殺人者の息子との結婚を破談にできるものと計画した犯罪だったが……面白

い読み物である。(平山記)

大相撲一月場所  
中大出身力士の星取表

## 出島・中尾が健闘

魁道も勝ち越す

〇〇

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒

東前頭6枚目 10勝5敗

▽豪風(尾車)

本名・成田 旭 平14卒

西前頭6枚目 4勝11敗



出島 関

▽玉春口(片男波)

本名・松本良一 平6卒

西前頭16枚目 7勝8敗

▽魁道(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

東十両8枚目 8勝7敗

▽中尾(松ケ根)

本名・中尾浩規 平7卒

東十両11枚目 9勝6敗

(池田記)

■荒川の氾濫に泣く

蓮根は江戸時代における蓮沼村と根ツ葉村が、明治二十一年の市制町村制により、志村の大字名となり、同三十三年に大字上蓮沼と根葉が合併してできた地名である。

地名の由来…⑬

「蓮根」の巻

ある。三丁目には、蓮根小学校、蓮根図書館の他、新河岸川との間には化学工場がある。

当地区の神社仏閣としては、蓮根氷川神社がよく知られている。境内には、「氷川神社遷宮碑」が建っており、そこには「当社八古来其の鎮座詳カナラズト雖エドモ



▲写真は蓮根氷川神社

蓮根には、一丁目から三丁目

まであり、一丁目は西台の台地に接しているため、海拔五メートル程の微高地で旧家が集まっている。二丁目には、志村保健所、蓮根区民センター、植村冒険館があり、地下鉄の蓮根駅も

元蓮沼、上蓮沼、根葉三ヶ村ノ総鎮守ニシテ」と記されている。

氷川神社は元来、元蓮沼の字前沼にあったが、荒川の氾濫が多かったため、人々は南方の台地に移住した。そのため、氷川神社は上蓮沼、根葉に譲渡され、これが合併して「蓮根」となり、蓮根氷川

神社となった。

明治四十三年に大水害が発生し、河川の大改修をした。その際、当神社が河川区域にあたり、移築の止むなきに至った。大正十五年四月十五日から現在地にある。

■蓮根地区の農産物

わが板橋区支部の副支部長・川口正先輩は、蓮根地区に生まれ育った方で、今回いろいろお話を伺った。

先輩のお宅は、江戸時代から十六代続く家で農業を営んでおられたが、地下鉄の開通に伴い現在のご商売を始められた。昔、江戸城造営に川越から材木を調達し、その伐採のため荒川の氾濫が増し、それを防ぐために新河岸川を作ったという。また当地は沼地で、先輩が子供の頃は蓮根（れんこん）畑が沢山あったそうである。

昔、沼地に生えた篠や萱が腐って蓄積したものが、地下で泥炭の層になって、太平洋戦争後など炭団を作って使ったという。

当時の農産物として、「やつがしら」、「さといも」の他「根葉しょうが」は、筋がなく柔らかい

ということと、谷中しょうがとともに有名だった。

(中三川記)



\*編集後記\*

●：弥生三月に入っても余寒は厳しい。ふくらんだ桜の蕾もまた萎んでしまったようだ。しかし季節は確実に巡って来る。高島平プロジェクトの担当で、観桜会の準備に入ったが、今年こそは好天を期待したい。●：花見につづいて、秋の支部旅行も雨にたたられたが、雨天ならではの佇いもある。文字数に制限があつて、楽しい旅の様子がうまく読んでもらえたら幸いである。

●：中大OB作家シリーズで、土屋隆夫の「不安な産声」を読んだのは、去年の夏休みだった。時間の経過で、薄れた記憶を辿りながらの読み返しは、宿題を課せられた学生時代を想い出した。

(平山記)